

つながりを作る・維持する

てんでん宮城
佐藤 夏色さん

2023・8・26 community center ZEL

てんでん宮城の佐藤と申します。あまり人前で話す活動をしてこなかったのですが、時系列通りに話すことが得意ではないです。ご了承ください。録画・録音はして大丈夫です。先程名刺をお渡ししましたが、「てんでん宮城」という団体で活動しています。実質一人で活動中です。

▼団体名の由来

てんでん宮城の「てんでん」という言葉を聞いたことある方もいらっしゃると思います。「津波てんでんこ」など、聞いたことあると思います。東北地方の方言で、それぞれという意味があります。例えば「てんでんに飲み物を持ってきてください」や「てんでんに帰ってください」というように使う。なぜこの名前を付けたかという、一人で始めると決めたので、誰かのためにではない活動を始めようと思いました。人が来てもそれぞれで頑張っ、責任を負わないという意味を込めて「てんでん宮城」と名付けました。

▼多賀城市について

活動は主に多賀城市で活動しています。仙台市の隣の市で、(だいたい)人口は約6万3千人の小さな市です。今年、7月現在のデータです。面積は4km×5kmの小さな街です。なぜ仙台市と合併しないかという、工業地帯だからなんですね。「理研のわかめスープ」とか聞いたことある方いると思います。その理研があったり、SONYの工場があったりします。震災の時にSONYで作っているテープなんかが、民家の庭から出てきたこともあり、復興作業で各お宅の泥を撤去するボランティアをした時に、SONYのテープが出てきたこともあり、都市伝説で、乾燥わかめが理研の工場から流出してわかめだらけになったという話もありましたが、それは嘘だと思います。私は見たことないです。SONY

DAY 2 つながりを作る・維持する

などの大きな会社があって、税金の収益が沢山あるので仙台市と合併しないのではないかと考えています。

▼活動の始まり：他の団体にやり方を聞きに行く

今回杉浦さんから「つながりを作る、維持する」というテーマをいただきました。このテーマを頂いて、そういえばそういった活動をしていたと改めて思った。最初から意識していたわけではない。いつから（活動を）していたかという、震災の2年後、2013年からです。活動当初はLGBTの知り合いがリアルでいなかった。どうしたら良いかわからず、まず人に聞こうと思った。活動当初から現在に至るまで、わからないことがあれば人に聞くという癖はずっと続いています。

まず、東京のLGBTパレードに参加しました。2013年（まで）には、Twitterで全国のLGBTの活動者や当事者と繋がっていました。その後震災があり、震災の2年後パレードに参加した経緯で、みんながかまってくれた、宮城から行くということもあって。アポイントメントを取り、活動をどうしたら良いかを聞きにパレードに参加しました。その時は会った人全員にちょっとしたお菓子を配りました。アポを取った人にどのように活動したら良いかを聞くと、新しく人を紹介してもらえることになり、どのように活動を進めたら良いかを聞くことができました。

▼多賀城市市民活動サポートセンターに行く

その後、多賀城市に帰ってからは、多賀城市市民活動サポートセンターに行きました。仙台にも仙台市市民活動サポートセンターはあり、他の地域でも違う名前で、市民活動をしている人をサポートしてくれる場所があります。相談に乗ってくれたり、事務用のスペースを貸し出したり、場所を提供してくれます。市民活動サポートセンターに行き、LGBTに関する活動をしたいことを伝えどうしたら良いか聞きに行きました。なぜかという、ネットで検索しても具体的な方法が見つからなかったからです。どのように活動したかや「議員さんをお願いしました」という内容はあったけれど、どうやって議員さんに繋がれるのかは書かれておらず、それなら初めから聞きに行こうと思いました。そして、多賀城市市民活動サポートセンターでポスト（レターケース）を借りることになりました。自宅の住所を公開しなかった為、ポストを借りました。

▼近隣の団体とつながる

その他には、ネットで調べた時に見つけた近隣の団体に活動を始める旨の連絡を送りました。：送られた団体は「誰？」みたいな感じだったと思うんですけど、とにかく一旦挨拶

しとこうと。これ何で連絡したかという、社会人のときに、私は飲食店の店長をしていたことがあるんですね。店長になりたての頃に、先輩店長に連れられて「近隣の店舗に挨拶に行くぞ」と言われました。それで飲食店なのに眼鏡屋さんなどに挨拶に行ったんですね。そのとき私は「関係なくね？」と思ったんですが、今思うと、何かあった時に最初に一度挨拶をしておいた関係と（何かあってから）初めて会うのでは相手の対応が違うと思うんですよ。その経験が頭にあったので、近くの団体にはメールを送り、とりあえず挨拶をしておきました。ほとんどの団体からは返信がなかったですが、1件くらいは返ってきました。

その後は、団体さんがやっている講演会を聞きに行ったりしました。そうした講演会にはパンフレットやフリーペーパーが置いてあるわけですね。良いなと思ったパンフレットやフリーペーパーにはその感想をメールで送ったりしました。メールをやり取りした方とは今でも繋がりがあります。

▼交流会はピンと来なかった

（団体を運営していくにあたって）安直に「団体と言ったら交流会でしょ」と思いました。何をやりたいかが自分でも最初はわからなかったの、とりあえず交流会やりました。何回か交流会をしましたが、人は5人、6人も来ませんでした。けれど、ちょくちょく来てくれた方と顔見知りになったりしました。

でもある時、参加者の1人の人がその場を仕切り始めて、それを自分止められなかったんです。「やべえな」と。これはよくない。その前からも、交流会がなんかピンとこないなと思っていたので、その参加者の人が仕切り始めたときに、もうやめようと思いました。それから一切交流会はやっていません。自分が楽しくないからやめて、それから他の団体のお手伝いをしました。他の団体が交流会やイベントをするときはスタッフとして手伝いをしており、それは今でも続いています。

▼図書館で通称名を使いたい

私はTwitter中毒なんで、Twitterばかり見てたわけですよ。そしたらある投稿があったわけですね。「図書館で通称名を使いたい」という内容のものでした。通称名ってみなさんわかりますか。本名じゃない名前のことです。女性として生きていくのが嫌で男性として生きているけれど、戸籍の名前は女性というときに、男性名を使いたいわけですね。トランスジェンダーと呼ばれる人たちに多いんですけども。

ある図書館では通称名で図書カードを作ることができるというツイートを見かけて、いいなと思ったんです。多賀城市ではどうかなと思い問い合わせたところ、「駄目」と返事が返ってきました。それで「何で」と思って。私は白黒はっきりさせたい性格なんですね。口約束とかではなく、完全に書類として残るような方法とかの活動しているわけです。なの

で、図書館に直接行かずに多賀城市のホームページの「市民の声」というフォームにすごいもう、他の地域のデータとか思いとかもたくさん盛り込んで、「クレームじゃないんですよ」という感じで送ったわけです。

1ヶ月返事は来なかったです。改めてもう1回問い合わせたら、「ちょっとうちではやってないです」と返ってきました。今は結構市役所の人たちと交流があって、このときのことを聞いたら、(送ったメールが) 回覧板のように回された。「こういう声がありましたぜ」みたいな。「やめて」みたいな。あまり市民の声というのは来ないんでしょうね。しかも、私データが大好きなんで、ばあっとデータとか盛り込んで送ったら、回覧板のように回されて、さらされてみたいんです。

とりあえず「駄目」という返事が来たので、それを Twitter や facebook で拡散しました。それに対して皆さん反応してくださって、ある人は、宮城県が一番大きい図書館に直接問い合わせさせて、「通称名使っていいですよ」という連絡をしてくれました。SNSで拡散したことによって、私が図書館関係のことであたふたしていると聞きつけた人が「佐藤さんに人を紹介してあげて」と言って、人を紹介してもらったりして、結果、元館長さんと繋がることのできたんですね。「うわー」と思って。

元館長さんも、内情のデジタル機器の話なども話してくれたので、「男女しか選択できないんですか」と聞きました。「『男』とか『女』とかに丸つけるのも、(手が)プルプルして丸をつけられない人もいます。コンピュータ的にそれはどうなんですか」と聞いたところ、「『その他』っていうところあるから問題ない」と言われました。問題ないのに多賀城市は男女の性別欄を頑なに作っているのかと思いました。

あと Twitter で大学の図書館で働いている人を見つけましたね。全然面識なかったんですけど、「ご意見いただきたいので来てくれませんか」と言ったところ、来てくださったんですね。その方ともまだ交流があるんですけども、その方、全然 LGBT 関係ではないんです。大学の図書館で働いて、委託なんですよ、元は書店の人なんです。その方が初対面なのに図書館司書のグループに私の問題を投げかけて、皆さんから募った意見をまとめてくれたんですね。それでやっぱり私が言っていることは矛盾していないんだなと思いました。通称名を使っても問題ないというのは、図書館側としては本を返してもらえることが一番の目的なので、名前がなんだろうが、その住所さえ合っていれば、返してと言いに行けるわけですよ。だから名前なんてどうでもいいと。

男女の性別欄もわかるんですよ、私もデータが大好きなので。男女でデータを取りたいという気持ちは、すごくよくわかるんです。ただ、取って、その後どう活用しているのかっていう話なんですよ。図書館として、そこが明確になっていない。「男」にも「女」にも丸をつけたくない人って、そうそういないわけですよ。数パーセントなんです。もういいじゃないですか。「私たちのことは無視してもらって構わないからデータ取ってちょうだい」って感じなんですけど、どうしても男女を分けたいんかい、と。

この件に関しては仙台市でもう、男女欄は廃止されているし、通称名でもカードを作れ

DAY 2 つながりを作る・維持する

るんですよ。なぜかという、仙台市って、転勤とか、あと大学生が多かったりするので入りが激しいんですね。結婚して名前が変わったりとか、いろいろあるので。議員さんの中には通称名で活動されている方がいらっちゃって、その方も通称名で図書カード作っています。仙台は寛容ですね。うちの多賀城市はどうなっているんだと。

元館長さんは、「図書館を考える市民の会」に私を連れてってくれたんです。そこに市議会議員さんがいらっちゃったんですね。そこで、「これこれこういう図書館の問題で悩んでいますよ」と話をさせてもらって、もう1人市議会議員さんと繋がることができたんです。まず仙台の市議会議員さんと、何らかの繋がり元々繋がってたんですね。その方々が「多賀城の市議会議員さんのところに連れてってあげるわ」と言って、連れて行ってもらい「これこれこういうことで困ってるんですが、どうにかありませんか」と伝えました。

その時、私は政治のこととか議会がどう進められているか、全くわからなくて。何も分かっていない状態で、多賀城市の議員さんとお話をして困っていることを伝えました。議員さんからは、「資料をちょうだい」と。資料は自分で調べないんだと思って。そのとき私は夜に仕事をしていて、もう昼間に行くのがつらかったんで、「深夜に仕事終わってから、議員さんの事務所のポストに入れときますね」と伝えました。それで、深夜にこそこそといってポストに資料を入れるという生活が続きました。その議員さんが渡した資料をまとめてくれて、議会に持っていきますと言ってくれました。

私はこれでことが進むと思ったんですよ。市議会で、テーマを取り上げてもらうってかなりすごいことだと思ったので。これでもう大丈夫だろうと思いました。市議会は今、全部インターネットで見れるんですよ。その前に議員さんから連絡が来て、「原稿が出来上がりました」といわれました。原稿と回答が届いて、私はその時、議会が台本で進むことを知らなかったんで、とても驚いたんです。

一旦質問を送ってその回答も来るわけですよ。あらかじめすり合わせされていて、9割決まってるんです。「佐藤さんごめんなさい」って先に謝られたんです。でもね、最後に、「来年も同じ質問を言いますから」と言われて、「1年かかるの」と思ったんですけど。議会の様子をネットで見たら、本当にその原稿のまま進んでいくわけです。「何だろうこの茶番は」って。そのときの私は無知すぎたんです。台本で進められるのは8割9割。あとの1割2割は、「今の質問なんですけど」というふうに、そこはバチバチなんです。「答えになってないよ」というところは、本当なの。でもそれ知らなくて、なんか、馬鹿だったみたいな。

「2年連続言いますからね」とその議員さんが言ってくれて、本当に2年連続同じ質問してくれたんですね。でもそれでも駄目で、「この訳わかんねハゲ市長」と思って。でも、2年連続やったのだからしょうがないかと思って「ありがとうございました」と伝えました。それからその市議会議員さんとは交流がありまして、一緒にご飯だったり、あと誰かの演説会と一緒にいたりとか、選挙があるときは連絡したりしていますね。2年間取り組んできて、結構「しょぼん」「チッ、分からずや」という気分になっていました。

DAY 2 つながりを作る・維持する

多賀城市の図書館って TSUTAYA 図書館なんです。知っていますか？ 図書館事業を TSUTAYA に委託して、すごく綺麗な図書館なんですよね。けど、すごい使いにくいんですね。TSUTAYA 図書館で、LGBT のことを取り上げた写真展もやってもらったりして、トークイベントなどにも呼ばれたりして、すごい好意的だったんですね。でも心の内は、「いいから通称名を OK にしろよ」って思ってたんですね。

石田：通名はずっと NG なのにイベントには呼ばれたんですか。

佐藤：そう、やばいでしょ。

石田：めちゃめちゃいいように使われてますね、それ。

佐藤：でもね、こっちは大人だからね、「よろしくお願いします。手伝いますか」なんて言ってたけど、「いいから通称名をどうかしてくれ、責任者出せよ」みたいな感じでやったの。

図書館の偉い人だか TSUTAYA の偉い人だかとお話ししていた時に、通称名の話をしたんです。「(色々活動して声を上げていたけど) 駄目だったんですよ」みたいな話を。そしたら「今 OK ですよ」って言われて、「いつからですか」「少し前から」「私には何も連絡ないんだけど」って。連絡するものでもないけど、一言あってもよくないかと思いました。性別欄ももうなくなって、「ちょっと一言もらえるかしら」みたいな感じでした。

こっちは半分顔出しして活動しているわけですよ。小さい市なんで買い物したらね、知り合いとかと会ったり、近くに親戚とか住んでるわけですよ。そういう危険を冒しながら活動しているわけですから、言ってくれてもよくないって思いました。でも良いことには変わりはないので、「OK になったならよかった」とツイッターで拡散しました。そこで「一言あってもよかったのに」ってチクリと入れましたけど。図書館のことはこれで一段落というか、いろいろありますが、一段落したという感じになりますね。

自分がこの時代に生まれて、Twitter と facebook というものがあってラッキーだったんですね。そこで文句をたくさん言って、そこに何かを書くと、誰かが手を差し伸べてくれる。Twitter にいた人をスカウトして話を聞いて、話の裏取りをしたり。そして完璧な状態で、多賀城市の市議会議員さんに持っていくことができたんですね。感情論ではなく、データとしてきっちり議会に持って行ってもらうことができました。ただ、2 年連続市長の回答は一緒でした。

梅田：図書館が駄目って言ってるわけじゃなくて、市長が駄目って言ってることですか。

DAY 2 つながりを作る・維持する

佐藤：図書館を管理しているのが市だから、ということですね。そうなんですよ、難しいところなんですよね。委託の件はまた後ほど出てくると思うんですけど、難しいところですね。この元館長さんは TSUTAYA 時代じゃなくてもっと良い時代の…あっこんな事言っちゃダメか(笑)。もっと良い時代の図書館の館長さんで、図書館を考える市民の会を立ち上げて、市に対して問題提起をいまだにやっているんです。私もメンバーで入れさせてもらっています。

▼LGBT 以外の団体との交流

その会に入れさせてもらったことで、メンバーのみなさんに LGBT のことをちょっとでも知ってもらうことができているわけです。あんまりグイグイは言わないです。一番年下なので下っ端の働きをしているんですけど、それでも理事会に入れさせてもらってるので発言権があって、市に要望出すときに LGBT の件を盛り込んでもらえるようになったんです。

市民グループには保育士さんとかもいるので、その子どものトイレ問題について、「ちょっとあのトイレおかしいんじゃないか」というのを盛り込んだり、それと同じように LGBT のことを盛り込んでくれたりして、自分の意図しないところで広まっていくのが良かった。

ここでちょっと気付くんですよね。LGBT を全面に押し出してやってたわけじゃないのに、自分がいることで (LGBT に関する要望も) 入れてもらえるんだって。そこでさらに他の団体との交流を増やしていくようにしました。

市民活動サポートセンターで事務用スペースを借りていて、仕切りや机があるだけのスペースが何個かあるんですけど、そこには他の団体の方も来るんですね。そういう時に挨拶をしていると、だんだんだんだん仲良くなって行って、お菓子を渡したりしていました。イベントなどで一緒になったりして。あとは人って誰かの悪口で仲良くなるじゃないですか。だからそういうのでどンドン人と仲良くなって行って、広がりが増えていきました。

でもその時も私は LGBT のことは言わなかったんです。聞かれれば簡単に答える程度でした。その程度の関係だったんですけど、やっぱりそれでもお互い気にかけるようになるじゃないですか。例えば交流のあった団体さんは、子どもに英語を教える団体さんだったり、大人の発達障害をぼんやりと考える団体さんだったりとか、あとは B 型事業所と言われる、障害者の方が働くところでクッキーを作っていて、仲良くなってクッキーを買ったりしました。LGBT を全面的に押し出すというやり方は今でもしていません。

▼手話部

活動している中で出会った一つが、「ろう LGBT 東北」というところでした。皆さん、杉浦さんの書いた『「地方」と性的マイノリティ』を読んだ人はいますか。もうこれを読めば、Zoom でいいです。フィールドワークなんてしなくていいです。読みなさい？みんな(笑)。

DAY 2 つながりを作る・維持する

この中にある杉浦さんのコラムにも出てくるんですけど、ろう LGBT 東北、聞こえない人たちの中にも LGBT がいるんだって（知って）。

先ほど言ったように宮城って何故かいっぱい団体があるんですよ。他の土地って大きい団体が一つや二つで、大学ごとにサークルがあるっていう感じなんですけど、宮城はなぜかわからないけど、みんな一人でやりたがるんです。つるみたがらない。なので、（団体が）10個以上あった時期もあったんじゃないかな。大きい団体が（他の）LGBT 団体を集めて、イベントしようっていうときに「ろう LGBT 東北」と出会って、あら大変と。手話できない。そのときは、こういうボードを使って会話をしたりしたんですね。今でも使いますが。昔から手話には興味あったけど、実際の一步が出なかったんです。ただ、ろう LGBT 東北を知ってしまったので、これやらないと人じゃないだろうと思いました。仲間だから LGBT だから、（手話の勉強をしないと）まずいぞってなって、手話部を立ち上げたんですね。

交流会と一緒になんですけど、みんなで集まって手話を覚えようっていうものです。結構人が集まってくれて、LGBT に関係ない人も集まってくれて、手作りお菓子を差し入れてくれたりもして人は集まるんです。ただ、この中で手話を学んだりできる人っていますか。（2人挙手）さすが。あのね、悲しいお知らせが一つ。手話って、みんな意外と興味ない。離れてく。近寄ってこない。来るけど学ぶっていう気がないわけ。「おい、お菓子食ってんじゃねえ」と、「こっちは教えてんだから手を使え」と。

根本：声で喋り出すんですよ。

佐藤：そう。声禁止にすればよかったおもうんですけど、教えるのも素人だし他の人も関心ないし、うまくいかなかったです。2、3回で終わっちゃいました。

どうしてもこのろう LGBT 東北を仲間として扱って欲しかったんですよ。ただどのイベントでもみんな一線を置いているのがわかったんです。ろう LGBT 東北の人に近寄っていかないんですね。ろう LGBT 東北のメンバーの中には聞こえて話せる人もメンバーにいるわけですよ。だから通訳してもらえばいいんですよ。（もしくは）ただこれ（ボード）持って行って、「わかんないから書いて」って、それでいいのに。やっぱり日本人って完璧じゃないとできないと思ってる人が多いらしくて、「挨拶程度の手話しか知らないからできない」って。「挨拶できれば十分じゃない」と思うんですけど。私は挨拶を覚えるのにも時間かかったよ。日本人は全部知らないと踏み込んでいけない。ぶっちゃけもう、「わかんない」っていう手話があれば乗り切れるんですよ。「唇読んで」みたいな。

▼UD トーク部

ろう LGBT 東北に関する活動に熱が入ったんですけど、「どうしよう、手話は人気ない」っ

DAY 2 つながりを作る・維持する

て。そこで、杉浦さんの本にも書いていただいたんですけど、「UD トーク部」というのを立ち上げたんですね。UD トークというのは、アプリの一つで、日本語を英語にしてくれたり、声を文字にしてくれたりするアプリなんです。そういうアプリはたくさんあるけど、UD トークの凄いところは、どこにいてもリアルタイムで編集ができる場所なんです。杉浦さんには映画の上映会で1回見てもらったことがあると思うんですけど。映画の上映会やったときに手話通訳と文字での情報保障、両方を呼ぶお金がなかったんです。手話通訳士を雇う費用が高い。

石田／梅田：昨日、ふくしまレインボーマーチの廣瀬さんも言ってました。

佐藤：言ってました？ そうですよ、パレードで今付くようになってますよね。でもお金がないんですね。ろう LGBT が来るというとヒヤッとしますね。「お金かかる」みたいな。そこで UD トークを使おうと思って。手話しか言語がない人にはやっぱり UD トークの文字の保障だけでは駄目なので、手話通訳士の人は呼びました。けれど文字の情報保障の人も呼ぶと大変なことになるので、そっちは自前でやろうと思いました。友達数人に UD トークの使い方を覚えてもらい、パソコンを持ってきてもらって、誤認識した部分を直してもらって、スクリーンに出たやつがすぐに正しい情報に修正されたりする。例えば登壇者の名前とか変換が難しいものは先に UD トークに登録して、お金を浮かせていました。

石田：UD トークは使用のお金はかかるんですか。

佐藤：使用する人による。自分みたいな団体は無料です。役所とかが使うときはお金がかかるかな。UD トークは三つの会社が共同で開発していて、そのうちの 하나가仙台の近くのところにある会社で、そこに話を聞きに行ったこともあります。UD トークの会社としては、取れるところから金を取るという方針。一般的の人は気軽に使えるようにする方針でやっているそうです。儲かってくると、値段も下がってきたりしてます。有料だったのに無料でいいんだみたいな。

梅田：みんな使ってます、大学の授業とかで。

佐藤：今そうなの、素晴らしい。

梅田：僕の大学の友達でろう者の方がいて、「映像と現代学」という映画を見る授業があるんですけど、分からないから UD トークを先生と繋げて見てたりしました。熊本の水俣病について出張で講義をしてくれた人がいて、講義のときに UD トークを使って、その場で文字を直してくれたりして、すごいなって思ったりしました。

DAY 2 つながりを作る・維持する

佐藤：すごいでしょ。かっこいいよね。

梅田：こういう使い方あるんだなと思いました。

佐藤：パソコンでメールが打てる（程度のスキルの）人だったらすぐ使えるし、スマホでも編集ができたりするんですね。

根本：ノートテイクとかしている時、書きながら UD トークを置いてお互いに見たりしましたね。

杉浦：上映会で UD トーク部を見たときは 2019 年で COVID 前だったんですけど、そのときの UD トークはそこまで精度が良くなかったんですね。そんなにも知られていなくて、今より実用的じゃなかったんですけど。編集する人が、5 人ぐらいですか。

佐藤：本当は 5 人いないんですよ。私が単に心配性なだけなんです。もし病気で来れなかったらどうしようとか、パソコンが急に駄目になったらどうしようとか、多分 2、3 人でいけるんですね。

宮城教育大学にろうの教授がいるんですけど、公開授業みたいなのがあって、「登壇者が全員ろう者か難聴者の人で、UD トークがつかますよ」と知りました。UD トークのことに興味を持って、「ろう者の人と繋がっていったので、UD トークのことを聞きたいから行っていいかな」と聞いたら、そしたらまたそこで人に繋げてもらって、宮教大の教授のところに行って、UD トークについて聞くことができました。ろうの人ってやっぱり話し方に特徴があって、マイクで拾ってもちゃんと字幕にならないことが多いんですね。（どうしているのかなと思ったら）リトークしてたんですよ。他の人が手話を読み取って、マイクに小さい声でトークしていたんですね。

自分もリトークしたことがあります。活動者が亡くなった時に「偲ぶ会」をやったんですけど、スクリーンに出すことは出来なかったんですけど、ろうの人には QR コードを渡してそれに出すから携帯で見てくれと。私は会場の聞こえるところにいて原稿をもらっていたので、UD トークに向かってリトークをしていました。

でも、UD トークをもってしても、ろう LGBT 東北にはまだ受け入れられてないという感覚があるんですね。手話も中途半端だし、他の団体の人も積極的に交流しに来ないし、何か壁というか距離をすごい感じて。こっちがやってあげるっていう気持ちじゃなくて、やっぱり自分がろう LGBT 東北に受け入れられてないっていう気持ちがあります。今はちょっと手話できるので悪口言われてるのはわかるんですけど、「こいつの手話わかんね」って言われたこともあるし。手話だったり UD トークの活動に関しては、ろう LGBT 東北の

DAY 2 つながりを作る・維持する

人に受け入れてもらえるようにしたいという思いで活動は続けています。

▼防災士の資格を取得

佐藤：私防災士の資格を取ってるんですね。比較的、簡単に取れるんです。お金さえあれば。

石田：いくらぐらいかかるんですか。

佐藤：地域によって違いますが、うちの自治体は 4 万円でした。合格率は高いので取りあえずお金さえ払えば取れるし、すごくためになる話もありました。(防災士の資格は) 国家資格じゃないので通称名で OK なんです。これが私すごい大きくて、もう速攻で取りましたね。

今までてんでん宮城は「被災地の LGBTQ」っていう価値がついていたんです。2013 年から始めたんですけど、被災地の LGBT ということで、話を聞かせてくれとお声掛けをいただいていたんです。でも、10 年経つともう被災地という言葉はあまり使われなくなってきて、今は「防災」という言葉が流行っているんです。「防災」意識が高くなってきています。そういう経緯で市民活動サポートセンターから「LGBT の話の中で防災の話をしていただけますか」と依頼が来しました。

もう 10 年経って、肩書きが何もない。大学も出てない、高校も商業高校で何もスキルがないんです。LGBT のことに関しても、LGBT 当事者だからって全部を知っているわけじゃないんですね。そして全部を肯定しているわけでもないです。後半で話しますけど。「やばい、このままだったら活動がなくなる」と思って、「防災って話が来た、確か防災士があった気がする」と思い当たりました。

コロナ禍だったので Zoom での講演会してくださいと言われてました。それまでに防災士の資格を取ろうと思ったんですけど、なんせコロナ禍なので、試験の日取りが延長しまくって、サポートセンターから依頼された日に間に合わず、資格が取れなかったんです。

でも「この先何かに繋がればいいや」と思って。防災士は 2 日間、座学があって試験があるんですけど、その他に普通救命講習を受ける必要があります。けれど「今コロナ禍だからやってないです」って多賀城市で断られました。隣町の消防署を紹介されて、そこでも「1 人では受け付けてないのでお友達とかいないですか」と言われた。「友達いないんですよ」と答えたら、「団体さんと一緒に受けてもらいますね」と言われました。でもその団体さんもキャンセルになって、またさらに延長されて、「このままだと資格が取れない」「試験合格したのに取れない?」と思って。まあ「合格」といっても、宮城の合格率はダントツに良くて 9 割以上の方が合格しているんですね。どうしようと思っていたら、ここだけの話なんですけど、仙台市でやってる講習だと住所聞かれないから大丈夫って言われて、「そんなんで

いいの？」と思いつつ仙台市まで行き、講習を受けて防災士の資格を取りました。依頼された講演はもう既に終わっていましたが。

でもやっぱり、多賀城市は防災の意識が高かったのも、防災士の集まりがあって、それに参加する中でも LGBT の話をするのができたのでよかったかなと思います。LGBT を全面に押し出すよりは違う方向から攻めて、中に入ってから LGBT について話すという、ちょっとずるい手法を私は使っています。

▼パレードの手伝い

昨日皆さんがお話を聞いた福島のパレードがありますけど、パレード自体、私は行かないんです。でも、パレードで杉浦さんと会ってますね。でもそれはね、手伝いなんです。パレードに参加したいから行くんじゃなくて、例えば山形のパレードは、山形のパレードの主催者と友達でお世話になってるから行くとか、岩手のパレードもお世話になってる人がいるから行くって感じです。活動者にとっては、パレードは同窓会みたいな場所になってるんです。けどなんでその場に杉浦さんがいるかわかんない。行けば杉浦さんがいるみたいな。

杉浦：私も誰かに会いに行く感じですね。

佐藤：そうですね、それが楽しくて行くみたい。

▼顔出しをしない活動

ただ仙台で行われているレインボーパレードは絶対に行きません。他の県で他の団体さんと会えるし、顔出ししない活動をしているので（地元のパレードは）リスクが高すぎるんですね。他の県のパレードに参加して、新聞社とかテレビ局とか来る時はどうするのと思われたかもしれませんが、私、マリオのメガネとかして変装しているんで、ばれないですね。今まで「てんでん宮城の佐藤」とこの顔（マリオ）を結びつける写真っていうのを 1 枚も撮ったことがなくて、必ず変装するか顔を隠してますね。

何故かという、デジタルタトゥーが非常に恐ろしいんです。今思うのは LGBT 関係なく、私が死んだらみんなの記憶から消して欲しい。私がいたこと、存在したことがなかったことにしてほしい。死んだ後に、自分のことについて何か言わないで欲しいし、写真が出回ることも嫌なんです。なので顔出しもしないし、変装なしの写真は撮らない。

ただ一方で、デジタルアセットという反面もあるんです。価値としてのデジタルデータ。仙台でも活動している人がいて、この本にも載っていますけども、震災のことだったり今までの活動のことだったり仙台で記録し続けている活動があったりして、自分も協力した

DAY 2 つながりを作る・維持する

ことがあります。自分の場合は、それがこっちの負の感情の方、デジタルタトゥーにあたるものとして後悔しています。自分のことを残したくない、他の人が活動しているし LGBT のことだって、他の人も喋れるし、自分だからどうという話は特にありません。

なので、ある時期からインタビューとか卒論の協力とか、全部お断りさせてもらっています。その前までの記事を見ると、自分の考えが変わっているんです。自分の考えも変わるのに、こんなもの残しちゃいけないなど。自分としては、インタビューだったり記事だったりというのは、こっちの負の感情なんです。杉浦さんもこうして残して下さっていて、記録として残すことが大事なのはわかります。けど「自分は申し訳ないけど協力できない、話すことないし」と思います。宮城だってね、他に話す人がたくさんいるので、自分は別にいいかな、みたいな。

皆さんの中で「この先に LGBT を取り上げたい」とか「話を聞きたい」ということがあれば、この本に載っている方々に連絡していただければと思います。私はすみませんが、今お断りしておきます。この本、本当にね、いいですよ。自分も知らなかった年表もあったりして、すごい良いなと思いました。

杉浦：(本で) インタビューを受けた人は、それ以降のインタビュー依頼にはこれ(本)を読んでっていうふうに言っているって聞きました。

佐藤：わかります。本当それ。それなんです。今日も思いました。みんなこれ読めばみたいな。これを見なさいみたいな。

杉浦：こういうインタビューの依頼が、ある人とかある団体に集中するっていうことが起こっています。そういうのを調査地被害と言っていて、以前からあります。調査をする側はちゃんと配慮しなさいと。

佐藤：私ね、この本のインタビュー断っちゃってすみませんでした。私はちょっといいやつで。とにかく私は自分のことを記録に残さないように残さないように今活動しています。ちょっとわかんないと思うんですけど、本当だったら、活動記録をどんどん重ねていくことが、活動としていいことだと思うんですけど。自分としては、てんでん宮城がなくなることを最終目標としているので、自分が活動しなくてもいい社会というのが自分のゴールです。なので別に活動履歴はなくてもいいんです。と言ってるのであんまりお声がかからず、お金もないって感じです。

▼市役所へのロビー活動

梅田：2013年から市議会で意見を言うまでの間は、2年ということですか。

DAY 2 つながりを作る・維持する

佐藤：2年ではないです。わからないな。

梅田：市議会議員の方が意見を2年連続で出したところが2年ですよ。

佐藤：そうそう、意見を連続で出してもらったのが2年であって、2013年から何年かかったかわからないです。ブログ¹を遡ってもらったらわかります。ブログ面倒くさくて全然書いていないですけどね。

杉浦：ブログありますよね。

佐藤：ブログの更新をしていないし、やり方も忘れたし、ツイッターで良いかと思っています。てんでん宮城のこととして報告することがないんです。だから今日久々に報告ができます。

耳障りのいい話をしてきましたけれども、トントン拍子にうまくいくわけではありませんでした。図書館問題の時に元館長さんに繋いでいただいて、「図書館を考える市民の会」で議員さんに会いました。多賀城市の議員さんとは別の議員さんです。自分からは名刺を渡したけれど、向こうから名刺をもらえませんでした。こっちを一度も見てくれないし目も合わなかったです。「はあ？」と思って。そういうこともあるんです。

自分は容姿が女性なので、完全に舐められていたんだと思います。皆さん今後誰かに会う時や何か活動で看板を背負っていくときとかは、特に女性に見える人は1人で行かないことです。絶対なめられるから、男の人もそうです。2人以上で行った方がいいです。

以前何かの講演会に呼ばれた時、その資料を作るために市役所の人に話を聞きに行く機会がありました。そのときに、このことが頭によぎった、1で行ったら負けと思って。市役所の人って絶対2人以上で来るんですよ。

石田：確かに。

佐藤：それも知らない馬鹿だったから。少しは学んだけど、でも一緒に行く人がいないわけです。多賀城市でLGBTの活動している人なんて1人しかいないんです。

¹ 2016.2.26のブログ「多賀城市図書館利用申込書の性別欄廃止と図書館利用券に通称名使用要望」の件。終わりました。ダメでした。」(中略)「8ヶ月取り組んでも何も変わりませんでした。」

2016.5.18のブログ「申し込み時、及び3年ごとの更新時に男女性別欄の選択不要。無記入でOK。図書館側のデータには「その他」で登録される。」(中略)「性別欄削除には至りませんでした。」「図書館に行きたくない」という気持ちは減ったかなと思います。」(てんでん宮城ブログから引用)

DAY 2 つながりを作る・維持する

「おいでよ宮城」っていうツイッターのアカウントがあるのを知っていますか、知らないですね。「おいでよ〇〇」っていうのは、宮城県やその周辺で流行ったフレーズで、おいでよ宮城さんは、「今日はこんな日だった。みんなもおいでよ宮城」という内容のツイートをずっとして、オリンピックの時、市民の人が聖火持って走るやつに参加した人でもあるんです。それに乗かって、「おいでよ〇〇」っていうツイッターアカウントがどんどんできて、その人たちのオフ会があったりしました。その中に「おいでよ多賀城」さんがいたんです。

ダメ元で男か女かわからないけど「市役所行きませんか？」とDMしてみました。「初対面ですけどちょっとついてきてもらっていいですか」って。ノリがいい人というのはわかっていて、「行きます」と返事を貰ったので「市役所で待ってます」と返しました。そしたら男の人が来て、「おいでよ多賀城です」と言われました。おいでよ多賀城さんには資料を配る係をお願いしました。そして市役所に行ったら5人いたの、市役所の人が。

石田：やばー！！

佐藤：危なかったセーフ！「おい多賀（おいでよ多賀城）さんありがとう」みたいな。5人いるわと思いつながりながら名刺を配りました。おいでよ多賀城さんもこの件をきっかけに、「顔を知ってもらったし僕も名刺作ろう」と言って、名刺を作ってグイグイ市役所に行き始めていて。調子乗ってる。

絶対1人で行っちゃ駄目よ、みんな。どんな肩書きがあろうとも、市役所に限らず何かに会いに行くときは2人以上。女子2人でもOK。できると思っても、自分1人で話せまですって思っても駄目。もう一人いるだけでいいの。

市役所を頻繁に出入りしている中で、市役所の人と仲良くなったきっかけがあります。映画の上映会やイベントでよく「協賛：仙台市・宮城県」とかあると思うんですけど、その協賛に多賀城市を入れたかったんです。どうやって取るのか分からなくて、また市議会議員さんところに行って「協賛取りたいんですけど、一緒に市役所行ってもらえませんか」と聞きました。「いいですよ」と言われて、2人で市役所に行って、協賛を取るにはどうしたら良いか聞き、紙を渡されて書きました。

意味のない協賛ってたくさんあるんです。ただ箔がつくから「仙台市」って入れたい人とか。自分の場合だと本当に協力してほしいとか、多賀城市を取り込みたい思いがあったので、チラシを置きに行ったり、実際に多賀城市で働いている人をイベントに呼んだり、イベントをやったりしました。市役所の人と仲良くなっていたほうが得だろうと思って動いてたんです。

おかげさまで結構意見を受け入れてもらえるようになって、多賀城市が主催で市役所の1階ロビーでLGBTのパネル展をしてもらったりしました。私は一切関わってないんですけど

DAY 2 つながりを作る・維持する

ど、「手伝いに行きます」って言って手伝いに行ったりした。そういう繋がりがあります。

▼つながりを維持するための労力・時間・経費

繋がりを作るというのは前半で話したことなんですけど、維持するほうがめちゃくちゃ大変で、とにかくお金と時間がかかります。知り合いがイベントをしているから隣の県まで行くことにしたらいくらかかるのか。ガソリン代、高速代、泊まるとしたら宿泊代。今日のみんなのフィールドワークも同じですよ。少し話を聞きに行くだけで何万かかるのか。活動する人はお金と時間がかかることを覚悟しないと。自分も計上してない経費だけで、多分15万ぐらい10年で使っていますね。こういう機会があるといくらもらえたりしますが、普段は入ってくるお金なんてないので。臨時収入も防災士の4万円で消えたりとかします。本当にかかる費用が高い。

例えばここのZELに来るとしても、手ぶらで来たことは一度もありません。必ずお菓子を持ってきて、「皆さんどうぞ」というふうにしています。

他にもLGBTの人がやっている飲食店やお花屋さん、居酒屋などいっぱいあって、たまに「チラシお願いします」って行くことがあります。そのときだけ行くというわけにもいかないので、日頃から居酒屋で飲むならセクマイの人がやっている居酒屋に行ったり、ランチ食べるんだったらあそこに行こうと決めています。それが維持費になってしまうんです。でもそれは計上できないし自腹なのでじわじわきます。時間も取られるけれど、それをしないと何かあったときに助け合えないし、それが活動するという事ではないかと思えます。

ただそういうこと（つながりを維持すること）をしていない団体は叩かれます。「そんな団体知らない」みたいな。ひどいですよね、「知らなくてもいいじゃん」「新しい団体なんでしょうよ」と思うんですけど。ただ、ヤクザじゃないですけどその場所で（同じような活動を）やっている人がいる限り、挨拶の一つもしておけるとは思えます。

だから自分は最初にメール送っというて良かったと思います。あまり大きい声では言えませんが、何か大きいイベントをやるときに、協賛をもらいに行きます。要はチラシに広告を載せるのでお金をもらえませんかということです。突然行くわけですよ。例えばですけど「パレードをやるので、協賛お願いします」って行くんですけど、それっきりとかあります。自分としては違うだろう、と。お願いをしたら、何回か（お店に）行って、チラシの確認もメールではなくて実際に持って行って見てもらうとか。「今日何でもないんですけど一杯飲みに行きました」とか、パレード終わったら「無事終わりました、ありがとうございます」とか、最低5回は自分は行くと思うんです。そういうことができていないと、なかなかいい顔されません。自分も大きい活動をしているわけではないけど、ちょこちょこ顔出して繋がりが切れないように、「何かあったら教えてください」と伝えたりしています。

とある場所で、LGBT関係のことについて市民が意見を交わす場がありました。そこで、おそらくLGBT当事者じゃない人が発言をしたんです。「でもぶっちゃけあれですよ。男

DAY 2 つながりを作る・維持する

も女も関係ないですよね」って言ったんです。「はあ？」と思って「関係ないっておっしゃいましたけど、関係あるから困っているんです」と反論しました。その後も当事者と非当事者の意見の食い違いがひどくて、進行役の人が泣いちゃったんです。終わってからフォローをしました。「関係あるぜ」って反論した人に対しても、話しかけに行って「さっきはすいませんね、Facebook 交換しましょう」というふうに行って、今でも繋がりがあったりします。泣いちゃった人のところにも行って、その人とも繋がりがあって、一応フォローはします。

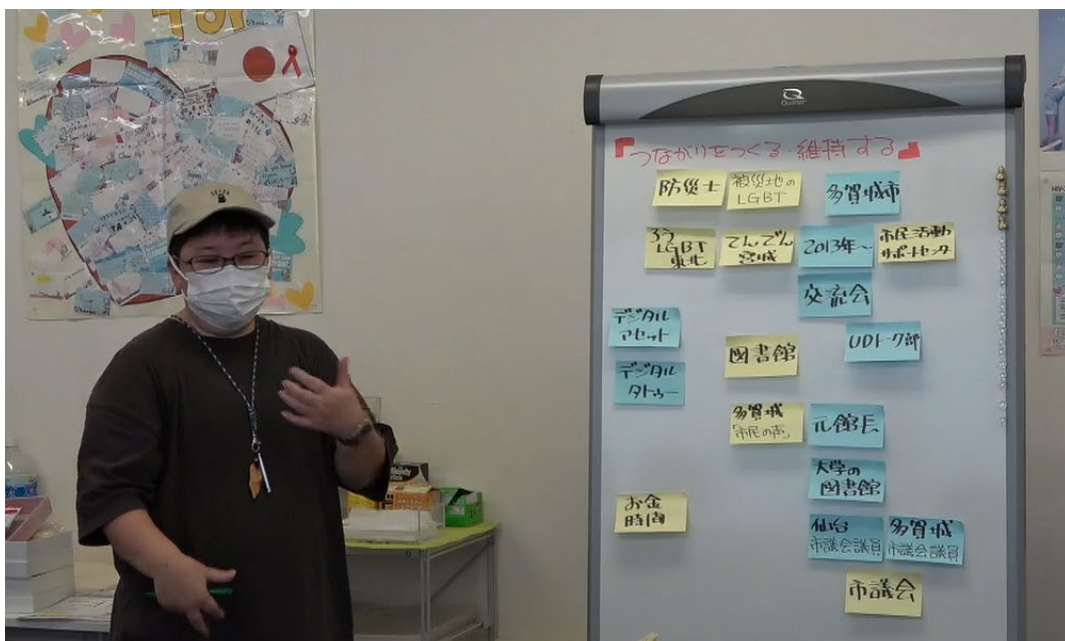
杉浦さんの本にも書いてましたけど、ろうの人は噂好きなんです。人の噂が大好き。本当にね、すごい。LINE グループに入れてもらっているんですけど、健聴者の人たちの話題を教えてもらえないと、すぐへそ曲げます。逐一噂を流しておかないといけないわけです。大変なの、噂大好きだし、聞いてもないのに言ってくるから、てんでん宮城とろう LGBT 東北は人の噂話で繋がっています。私がこっち（ろう LGBT 東北）に流し、向こうがこっち（てんでん宮城）に流してっていう感じで。

今度話そうかなって思ってるのがあって。仙台市って区があるんです。その区議会選挙で、ゲイの人が当選したんです。その人を応援する LGBT の人が誰もいなくて、だから話題にもなってないんです。

杉浦：あの人ですか。

佐藤：東城ひろみさんというゲイバーのママです。

杉浦：市じゃなくて区なの？



DAY 2 つながりを作る・維持する

佐藤：区なんですよ。仙台は、区議会と市議会があって。

杉浦：区選出の市議会ですかね。

佐藤：そうかも。とりあえずその区の方が当選しちゃったんです。残念ながら、当選した人は敵がいっぱいいるわけです。敵がいっぱいて、ある人とバチバチなの。Twitterとかでお互い悪口を言ってて。当選したゲイの人は、名指しはしないけど、「有害な活動者を許しません」みたいに書いてるの。「絶対この人じゃん」みたいな。こっちはこっちで、Facebookで悪口を言って、「あの人が昔からああですからね」って。「当選しないだろうな」と思ってたら最下位で当選しちゃって。さっきもここ（ZEL）の代表と、当選しちゃったんだけどみたいな話をしてました。誰もその話題に触れない。

杉浦：維新ですか。

佐藤：維新かな。わからないので後で調べてください。東城ひろみさんっていう方は、ゲイバーのママで、第1回の仙台でのパレードを主催した人なんです。

梅田：維新でした。

佐藤：維新だった。何選挙だった？

梅田：市議会議員選挙。太白区ですね。

佐藤：当選しちゃったんだよ。新聞でも取り上げないわけ。

梅田：怒ったら怖そうですね。

佐藤：怖そうですね。なんか近寄り難いでしょう。

第1回のパレードでもう大揉めに揉めて、だから今、仙台市でパレードしてね、仙台市周辺っていっぱい団体がありますよってお話しましたが、協力しないんです。LGBT団体が、仙台のパレードに関わらないんです。「近寄りたくない」みたいな。今はもう東城ひろみさんはパレードやっていないんですけど、パレードのあり方とか宮城県独特なんで。

団体と言っても自分みたいに1人でやってる人もいるし。LGBT当事者の人でお店をやってる人はみんな最初1人でやってたんです。それはなぜだかわからない。何か研究してくれませんか。1人やってる人が多くて。自分のやりたいことがあるからかなとか。

DAY 2 つながりを作る・維持する

梅田：仙台に住んでみないとわからないですね。

佐藤：ね、何だろう。「仲間が欲しい」で終わっている人は、どこかの団体に行くんです。そうじゃないんでしょうね。宮城県ぐらいじゃないかな、本当にこんな団体がたくさんあるのは。すごい面倒くさいなと思います。

質疑応答

杉浦：皆さん、そろそろ質疑応答にうつります。

佐藤：「パートナーシップが今流行っているけど」とか、何でもいいですよ。

杉浦：一つ質問あるのですが、資料を作っているじゃないですか。議員に渡す資料とか、そういう資料はどうやって作っているのですか。

佐藤：ネットで調べて、かき集めて、感情論じゃないデータを渡します。これは何月何日現在など裏が取れるやつ。出典も全部書いて渡しています。そこから使えるものを市議会議員さんが拾っています。知らないことを一から議員さんが作るのは難しいと、やっていたと思いました。

杉浦：質問の基礎資料になりそうな情報をまとめて渡していたということですか。

佐藤：そうです。議員さんが「これどこの本からだろう」と調べなくていいように、「何月現在」とか、「出典これ」とか、裏が取れる情報しか渡してないです。感情論の話は会った時にしているので。渡した資料としては本当に良いデータです。そこに議員さんが話を盛りつけていって、渡してくださるかたちです。

杉浦：ツイッターとかフェイスブックとか

ブログとか、SNS を使ってますけど、基本は全部会いに行っって対面で繋がりを作ったり維持しているということですか。

佐藤：そうですね、1回は必ず会います。なかなか会えない人もいますけど。東京のパレードで会った人は、1回しか会ってないけどツイッターでもその後の交流があります。何年か経って連絡がきたりとかしますね。「まだ活動されているんですね」って。1回しか会ってないけどそういうふうに連絡をくれたり、「来ることがあったら連絡して」みたいなフランクな感じで繋がりがあります。

杉浦：ネットだけの繋がりというのは基本的にはなくて、両方（SNS と対面）で繋がっている感じですか。

佐藤：コロナがあってから Zoom とか、会わなくてもこと足りるってなっちゃったんですけど、私はずるいので、直接会って知り合いにさせちゃうんです。知り合いになっちゃう。そうすると、情報の交換もしやすいし相手も無視できなくなっちゃうじゃないですか。そのやり方で、アライっていうんですかね、支援者を増やすことをしています。仲間というか、味方を増やさない駄目だと思ったので。とにかく会いに行っって、1回会ったら知り合いだと思っるので、ツイッターでたまに「いいね」をして存在感を出すとか、リツイートして

DAY 2 つながりを作る・維持する

みるとか。

もちろん LGBT 関係ない人のイベントにも行きます。この本の中で前川先生がおっしゃっていたんですけど、活動している人同士ってどこに行っても会うんですよ。LGBT じゃなくても、全然関係ないコーヒーのイベントとかに行っても会います。とにかく活動し始めちゃうと、活動界限で顔見知りになるので、それはいいなと思っています。

別にそこで LGBT の話はしないし、世間話をして終わります。向こうでは何言ってるかわからないけど、「LGBT の知り合いがいるよ」と言ってもらえればいいな、というぐらいで。直接 LGBT の話をしたことない人っていうのは、たくさんいるし、それでいいと思っています。たまに思い出してもらえればなという感じで。

今日もらったテーマが「繋がりを作る、維持する」というところなので、そういうお話しましたが、私の活動内容もあんまり LGBT 関係ないと言えれば関係ないというか、LGBT を押し出すようなものではないので、今回いただいたテーマよかったなというふうに思います。

杉浦：確かにね、Zoom で少し会って話をしたぐらいでは知り合いとは言わないかもしれないですね。

佐藤：覚えてないでしょう。

杉浦：「Zoom で話したことがありますね」

とは言うけど、「知り合いです」とは言えないと思います。

佐藤：1 回でもね、会えば言える。

杉浦：1 回会えば「知り合いです」っていうふうに言えますね。

佐藤：パレードで会えば次のパレードで会ったとき、手を振ることができるじゃないですか。Zoom であった人に手を振ることはできないじゃないですか。そこは私はずるい手法で、とにかく会いに行く。会っちゃえ、みたいな感じで。

梅田：人間わかってますよね。絶対に断れないじゃないですか。対面しちゃったら断れないから。

佐藤：そう。だから何かあったときに頼みやすいし。Zoom で出会った人に何かを頼むのってハードル高いですよ。

杉浦：高いですね。

佐藤：だから必ず会うようにしてます。イベントで集まったときに、名刺交換できない人はいますが、そのときは別の日に会いに行きます。

石田：へえすごい。

佐藤：会いに行って、向こうも覚えてないだろうけど「あのとき集まりでのご挨拶できなかったんで」と伝えて名刺をお渡しします。そうしたらもう知り合いじゃないです

DAY 2 つながりを作る・維持する

か。一対一で話せるから、集まりで名刺交換した人よりも仲良くなれますね。「今後ともよろしくお願いします」と言っても、今後の予定なんて、ないですよ。ただ名刺交換したら知り合いだから、何かあったときに連絡できるという、お互いwin-winになれるので、もう図々しく阿呆のふりしていきます。「アポありますか」と言われても「ないです」と返して、「いない」と言われたら「いつ帰ります?」と返して。これが私の強みというか、馬鹿でよかったと思って。

石田：すごく丁寧です。

佐藤：いいこと言ってくれた。これが丁寧とは思えないけど、本当は資料を配ってとかやりたかったんですけど、私にはその技術がないので。

杉浦：皆さん、他に質問ありますか。

石田：あります。私、長野県のあずみの市というところに現在住んでいるのですが、市の人に会うのに、市議会議員を同席させたんです。

佐藤：素晴らしい、うまい、上手。

石田：だから「合っていたんだ」と答えて合わせをして。

佐藤：いやこれが合っているかどうかは知らないよ。普通の人はやらないと思うけど、私は大賛成。

石田：普段からカラフルなラフな格好で行くんですけど、他の人は全員スーツで来ていて1人だけラフな格好で、多分1人だったら足元見られていただろうと思いました。市議会議員の人が友達なので行こうと誘ったら了承してくれて。その市議会議員ももちろんスーツで来ていました。

議員さんは会派がわかれたりするじゃないですか。繋がりって大事だと思うんですけど、何人も繋がったら、自分がやっている活動に応援している会派がわかれちゃって、政治的なこともあるかもしれないんですけど、そこがすごい難しいなって思っています。佐藤さんもめっちゃめっちゃ繋がって会いに行くじゃないですか。そこら辺をどう切り分けているのかなと思って。地域の中で結構センシティブだと思うんですよ。

佐藤：いい質問です。それ言わせて、私言いたかったの。図書館問題のときに行った元館長に紹介されたグループで議員さんに無視されたって言ったでしょう。ここの党と多賀城市の市議会議員さんの党が違ったの。でも、こっちの人（紹介された議員さん）に無視されたから良かったと思っています。今はこっち（多賀城市の市議会議員さん）推しです。

パレード関係で山形の県議会議員さんとも繋がりがあって聞いたのですが、女性議員に限ってですけど、超党派が多いそうです。女性の議員さんは党を越えて協力する傾向があるそうです。政治の世界では女が弱いから、党がどうだとか言っていられない。

DAY 2 つながりを作る・維持する

みんなのポストに市報とか市民便りみたいなのが毎月来ると言うんですけど、それ見ると面白くて、アンケートの賛成反対は党によってガッツリとわかれているんです。〇〇党の中で1人だけ賛成ってというのは絶対あり得ないんです。その中で、この議員さんに LGBT の 이슈を持っていったことは、自分としては申し訳ないと今でも思っています。自民党なんです。「自民党の議員さんに持って行ってしまった」「やっちゃった」と思って仙台市の議員さんに相談をしました。仙台の議員さんからは「女の議員さんは超党派で上手くやっているはずだから、佐藤さんは気にしないで大丈夫です」と言われました。ありがたいと思ったけれど、自民党の中でだいぶ苦労されたと思います。そこは申し訳ないと今でも思っています。だけど知らないで行ってよかったです。

内情を知っちゃってからは、迂闊に議員さんに近寄れないと思っています。そのときの政治によって党の考え方は変わってきます。このときの自民党はやばかった。でも変わってきているので、そのときの風の動きを見て、どの党に行くのかを判断しないと駄目ですね。元々自分は議員さんと繋がりたいという思いが強くて、議員さんの住所とか公開されているところに、全部に手紙を出してやると思っていたんです。

石田：怖い怖い怖い。それはやばい。

佐藤：やばいよね。今なら党が何をしているかを調べてからその党の議員さんにスポットを当てて手紙を出しますが、そのと

きは、全員に手紙を書こうかなと思っていました。偶然にも1人だけが協力してくれましたけど、2人3人が手を挙げたら自分はどうするつもりだったんだろうと思います。政治って難しいなって思います。

踏み込めば踏み込むほど、やればやるほど、これって議員さんの仕事じゃないかと思うようになりました。おそらく議員さんになる人っていろいろな困りごとを知ってしまった人が、自分の力ではどうしようもないから、解決するために政治の世界に入ったんじゃないかと思います。私の勝手な想像ですけど。

石田：あとは周りが、市の中の課題を上げるために、みんなでこの人に行けっていうパターンもありますよね。

佐藤：うん、それもあるね。先日、期日前投票行ってきたんですけど、昔は興味がなくて投票とか行きませんでした。でも、知れば知るほど、この投票1票を無駄にはいけないと思うようになりました。「議員さん誰がいいですか」って市民に聞いてくれるわけですから。ここだけの話ですけど、私のことを無視してきた議員さんがもう一つ上の選挙に出ると聞いた時「落ちろ」と思いました。でもそれでいいと思うんですよ。応援する人もいないけど、この人にはなって欲しくないと思って投票に行くのも。本当は誰かを応援する気持ちで行ったらいいけど。

石田：選挙って表明だから、白票でもいいから、入れたくないっていう気持ちで投票

DAY 2 つながりを作る・維持する

することもいいと思います。

佐藤：それも賛否あるけど、自分はいいと思う。

石田：私もいいと思います。

梅田：白票があるって初めて知りました。僕は18歳になったとき、わからないと思いつながら投票しました。

佐藤：投票用紙の質感は感じてほしいです。わかりますよね。紙文房具マニアの人はいですか？ あの紙は他にはない書きやすさがありますよね。鉛筆で書いたときの心地よさ。

根本：投票ボックスに入れた後に、自然と開くようにするための素材だから、他の紙と全然違いますね。

佐藤：他で売っているの見たことない。1回試しに折りたいくらいすごい紙だから、白票のときでも何か書いてほしい。

根本：無効票になるために書くってことですね。

佐藤：描き心地を試してほしいの、クセになる。次の投票も、あの紙に会いに行こうみたいな。投票によっては裁判官の投票のときもあるから、何枚もかけるの。時期が重なって最大4枚書いたことがある。

梅田：駄目な人に入れるんですか。

佐藤：裁判官はそうですね。

杉浦：裁判官はマルバツをつける。

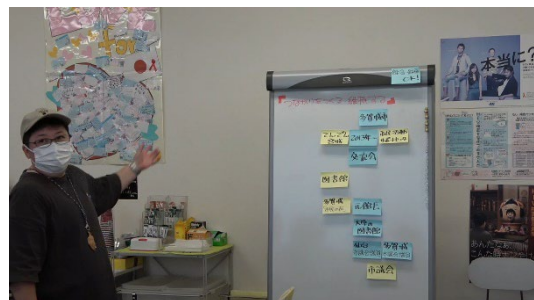
梅田：僕やりました。「釣りが趣味です」みたいな裁判官がいっぱいた。

佐藤：それがいっぱい重なってね、3枚か4枚書いたときがありました。「ワーイ書き放題」みたいな。

杉浦：まだ喋ってない人、喋ってください。じゃあ根本さん。

根本：「繋がりを作る、維持する」というテーマっていうことで、最初は図書館の通称名の話と性別欄のことで、自分に引っかけたから変えたいという思いで、自分に関わることを軸にしているなと思いました。現在声を上げている、もしくはこれから上げようと思っていることはありますか。

佐藤：そうですね。防災士の活動は、力を入れていきたいという思いがあります。私はいつもこれ（首から下げている笛）をしているんですけど、（実際に鳴らす）結構大きい音が鳴ります。目の前で、盗撮していた人のことを注意できなかったことがありました。喉が詰まる感じがして。



DAY 2 つながりを作る・維持する

梅田：わかります、本当に。

佐藤：ね。だから、「笛だ」「笛を吹こう」と思って。声出ないですよ。

石田：その隣は普通のアクセサリーですか。

佐藤：うん。これは木の葉っぱ。これ(笛)を必ずつけるようにしています。誰が倒れたときも、とりあえず吹けばみんな振り向くじゃないですか。声が詰まるという経験をして、「いざというとき、人を助けられないな」と思ったのと、あとは自分が困ったときに吹けるようにするために、持つようにしています。

あとは、防災の中に LGBT の視点を入れたっていう気持ちと、LGBT にこだわらずに、例えば、男性のトイレにもサニタリーボックスを入れて欲しいという活動してたんです。活動というか、行った施設で「置いてないですか」「置く予定ないですか」と聞いたり、イベントのときに「これを」と言って、使い捨てのサニタリーボックスを持っていったりしていました。多賀都市の市民活動サポートセンターでは、男性のトイレにも、サニタリーボックスを置いてもらっているし、市役所でも男性のトイレにサニタリーボックスが設置されました。それを LGBT で押すんじゃなくて、男性でも痔ろうの方が女性用の生理ナプキンを使っているという話を聞くし、あとは尿漏れ対策として、男性用の尿漏れパッドを交換したときに捨てる場所がないということを絡めて行きたいと思っています。

梅田：オストメイト。

佐藤：そうそう、オストメイトとかもそうですね。ただ、知り合いの人からは結構反対意見をもらいました。要は見た目が男性でも生理がある人がいるんです。

石田：そうですね。

佐藤：ざっくりした言い方ですが、女性から男性になった方には生理が来る人がいます。生理を止めたり、子宮卵巣を取ったりする治療もありますが、治療をしないで男性ホルモンを打っているだけの人は、生理が来ることがあります。そうするとサニタリーボックスが必要になりますよね。

「個室にサニタリーボックスじゃなくて、トイレの中にゴミ箱があるからそこに捨てたらいいじゃないか」と言われたことがあります。これはどう思いますか。

梅田：僕も今そう思ったんです。ゴミ箱を入れればいいじゃんって思っちゃったんですけど、でもそこまで持っていくのが嫌だなと思います。

佐藤：多分誰も見ていないと思いますが、当事者としては個室で済ませたい。というやり取りもあったりして、LGBT 同士でもわかり合えない話もあります。男性のトイレにサニタリーボックスがあると、荒らされたり持ち帰られたりする、と言われて。

根本：さっきそれを思いました。男女共用のトイレの中で生理用品を捨てたくない人がいて、その理由が持ち帰られる危険性

があるからというのを聞いたことがあります。女性用トイレなら、ゼロとは言わないけど明らかに確率が低くなるから。男性の見た目をしているけど生理が来るっていう方がいらっちゃって、そういう方が個室の中で済ませたい。それを知らずに来たシスでヘテロの人でそういう性癖や趣味があったとしたら可能性が高くなるので、反対されたりする理由になりそうだと思います。

佐藤：おっしゃる通りですね。あります、持ち帰りが怖いという。

大沼：コラムみたいなやつで見たんですけど、キャバクラで、とある男性客が血のついた生理パッドを持ってきて「これ持ち帰るね」みたいなことをキャバ嬢に話したら、ボーイが「それ俺のだ」「俺、今、切れ痔なんだよね」って。だからボーイの切れ痔の血でよかったなって思いもありつつ、女の子の血じゃなくてよかったなと思いつつ、でもボーイの血でもボーイのプライベートは守られてないから。

佐藤：そうですね、癖（へき）ですね。それを言われて、サニタリーボックスについて反対されると何も言えないじゃんという気持ちになりましたが、実際そういう事例もありますよね。

根本：女性用トイレにたまにある自動で開閉するサニタリーボックスや壁に埋め込まれたタイプだと漁られる確率は低いけれど、そのためだけに男子トイレの中を改造しろというのはハードルが高すぎると

思います。けれど、ステップアップをしていく第1段階の、使い捨てのサニタリーボックスを置いて欲しいという段階では、漁られる確率は高くなってしまうので嫌がる人が出るというのは、難しいと思います。

佐藤：それは本当に言われます。仲良くしている人から言われて反対されたりします。でもそれって「女性1人で夜道を歩くのは危ない」と言っているようなもので、悪いのは、女性が1人で夜道を歩くときに狙っている人で、こちらは何の非もないわけです。ましてトイレで生理現象を処理しているだけなのに、そこに癖を持ち出して漁る人が悪いだけで、そこに男も女もないと思います。表面化していないだけで、女性でそういう癖があって持ち帰っている人もいるかもしれないじゃないですか。全部が男性のせいにするのもどうかと思います。それは強く言いたい。

こうした話をしたとき、「自分はこうやってきたのだから、お前らも同じようにしろ」と言う活動者の方は案外多いです。自分としては苦勞しない時代にしていくのが先を生きていく人の役目なのに、先を生きていた人ですごく苦勞していたから、お前らに情報を渡さないという人がとても多いです。サニタリーボックスの話のときも、「自分は持って帰ったけど」と言われたりしました。「そうですね、ご苦勞様です。夏はさぞ臭いましたでしょうね」という感じで、私は議論するつもりもなく聞き流しました。結局、当事者じゃない人たち、市役所やサポートセンターがしてくれました。やってくれて、ありがたいですね。

DAY 2 つながりを作る・維持する

根本：実際、確率論の話なので、漁る人が出るかどうかわからないし、自分がその個室を出てしまったらゴミのことなんて気にしないですよ。気持ちの問題なので、それを無視したくないですけど、それを理由にその場で捨てたいというその気持ちを無視したくないです。

佐藤：そうだね。無視するわけにはいかない。知ってしまったからには、無視するわけにはいかないから。捨てたくない気持ちもあるし、怖いって気持ちもあるし、片方で男子トイレで困っている人もいるわけです。

根本：だからそちらの気持ちも無視をしたくない。

佐藤：それを知っているということが大事だと思います。両方の事情を知らないで、「犯罪が」と言い出す人が多くて、耳をふさぎたくなります。アライの方へ行きたくなります。ごちゃごちゃ言ってくる人はもう無視してます。構ってられません。本当は対話しなくちゃいけないんですけど、その人を説得したところで、その人が設置をしてくれるわけじゃないので。やっぱり実現可能なところにアクセスしていくほうがいいんじゃないかなと思います。ただ様々な意見や感じ方があることを知っておくというのが大事だと思います。

大沼：そこに捨てたくないのであれば捨てないという選択肢を取ればいいので、結果的に誰かが必要としているから、そこに存在していた方がいいよねっていう代物で

すよね。あるということを前提にした後、さらに選択肢が生まれるわけじゃないですか。そこに捨てるのか捨てないのかを選べるようになったっていうふうに捉えるのであれば、話は進められると思います。

佐藤：なるほど。

大沼：選択をするのが人間なので、10人いて1人でも欲しいっていうんだったら設置すればいいと思います。設置した後にいらなくてしよって言うのであれば、それを使わないっていう選択をあなたがすればいいだけであって、必要だっていう人は使えるんです。それでWin-Winじゃないかと思います。とうらぶ（刀剣乱舞）の中で長義（山姥切長義）いるじゃないですか。

佐藤：すみません「とうらぶ」とは？

大沼：刀剣乱舞ってゲームの話です。

佐藤：OKわかった。

大沼：そのゲームの中に、長義っていう名前の銀髪的美青年のキャラクターがいるんです。そいつの格言で「与えるものが与えねば」と言うのがあって。

佐藤：推しの言葉が来た。

大沼：「うわーこれだ」と思って。与えるものが与えなければ得られないものは一生得られないんです。ずっとそこで四方八方ふさがって、「自分って、世界に受けられてないんだ。自分は小さい狭い世界でずっと

生きていくしかないんだ。暗いお部屋の中であんなふうに輝きたいと思っているけど、この壁は絶対越えられない。自分が溝を深めているんじゃないで、溝がどんどん深まっている」っていうふうに錯覚させられてしまう、みたいな。それに気づいたんだったら、行動して「やってあるよ」ということを伝えていったら、「なんかこっちに橋があった」と気づくことができれば、この人、世界に行けるんですね。だから、あった方がいいんです。

佐藤：わかります。よくわかります。選択肢をいらないなら、いらない選択肢のまま生きていく道を、どうぞ勝手に。必要な人はこちらへどうぞ、みたいなことですよ。

大沼：巷で「あれいらなかったよね」というのは聞くし、愚痴としては全然いいんだけど、それを当事者に言ったりした場合、「あなたが使わなくてもいいんじゃない」と思います。私は必要だったから、僕は必要だったから、俺は必要だったから使っているよっていう、違った価値観として、意見として、そういう言葉が言えるようになる世界を、僕は望んでいます。

佐藤：素晴らしい。本当に選択肢が増えれば増えるほど生きやすくなる。今、議員さん（仙台市）が夫婦別姓を推し進めていますけど、これを LGBT のパートナーシップと一緒にやったらいいんじゃないかなんか思っています。性別を変えたくない人はこちら、性別一緒の人はこちら、それでいいだけなのに、なんでこんなにもめているの

かと。パートナーシップを組んだ場合、必然的に名字は別々。養子縁組をした場合は必然的に名字は一緒になっちゃうわけです。選べない現状。だから戸籍の問題であれば、LGBT のパートナーシップ問題、同性婚問題、選択制夫婦別姓問題は、一緒に手を組んだ方がいいんじゃないかなんか思っています。

仙台市の議員さんともお話をしていて、この議員さん、パレードに来てくれて、どの写真にも写っていますが、なんで LGBT の団体の人はこの議員さんと一緒にやらないのかなんか思っています。自分含めてですけどね。今話を聞いて、また挨拶行こうかなんか思いました。選択は多い方が LGBT に限らず、生きやすいですね。

大沼：僕はそれを言ったことがあるんですよ。こういうふうな会談や、プライベートで当事者性のない人と話したときに、「選べるなんて贅沢だよ」っていうとんでもない意見を言う人がいて。

佐藤：何様。

大沼：「選べるなんて贅沢じゃん」「選べない中で人は工夫して生きてきたから」みたいなこと言われた瞬間に、僕は「工夫した後に、あった方がいいんじゃないですか」って言って。でも「工夫した先に物がいっぱい増えて、結局埋もれていたら意味がない」「意味ないことやるの」みたいに言われて。「あなたからしたら意味がないことなんだね」「でも、僕からしたら意味があることだから言ったんだよ」「どうぞ不便な

中で暮らして」と思って。

佐藤：そういう人って選択肢をたくさん持って生きてきていますよね。

大沼：そうですね。自分が恵まれているということを理解せずに、そういう言葉を使う人がやっぱり一定数います。でもそれはその人の価値観で、「僕はその意見を否定するつもりはないよ」と言ってお話をしているので、「喧嘩する気なんて毛頭ないですよ」というスタンスなんです。

佐藤：凄く喧嘩していて、バチバチじゃん。

大沼：話は変わるんですけど、僕一回、露出の多い服と露出の少ない服を着て街に出る実験をしたことがあって。露出度高めの服を着て、メイクばっちりやって、ショッピングをしていたら、とある人に「強く見える」「意見をしっかり言って、はっきり物を申しそうに見える」「だから怖い」と言われて。女の子の服を着るとき、露出が低めの服を着て行くとめっちゃ話しかけられるんですよ、キャッチとかに。押したらいけそうみたいな。痴漢に関する談義のとき、「露出の高い服とか着ていたんじゃないの」という輩がいるけど、逆に露出の少ない服を着ていた方が狙われる。それに痴漢とかする輩は、顔なんて見ていない。

佐藤：ちょっとさっき言っていた話に戻るけど、選択肢が多いというのは、どの人にも当てはまることで年齢も関係なく、性別も関係なく、もちろん国籍も関係なく選択

肢があった方がいいですね。それは、どんなことにも使える話だなと思います。

杉浦：まだ話していない人、鈴木さんお願いします。

鈴木：繋がりを増やした後、維持するのって難しいじゃないですか。僕も繋がりを増やせるタイプじゃないので、一度繋がりを作ってそれが何年か続いたならば、それは続いていくんですけど、繋がった人は1ヶ月とかですぐ切れたりするので。そういうのを残しておくのはどうやったらいいのかなっていう。

佐藤：関係性によりますよね。自分、友達は0か100なんです。友達のことをひどい切り方をするんです。それをきょうだいかからも昔から心配されています。「人の切り方がひどいから気をつける」と。自分でもそうだなと思いつつ、最近でもそれは直らないんですよ。

鈴木：切るのとは何か理由があったのことで

佐藤：うん。嫌だなと思って。

大沼：わかる。

佐藤：「この人なんか嫌」「もういいや」となって、もうメールを返さない。LINEやTwitterなど表で嫌なことを言われたら、裏で「なんでそんなことを言うの、嫌だよ」と伝えて、それでも言い返されたらフォロー解除したり。それでも来るんだったら、

DAY 2 つながりを作る・維持する

適当に相手をして終わりますけど、あとはもう知らないみたいな。

だから友達がいらないんです。恋愛と他人に興味がないので、友達がいなくても楽しく生きていけちゃう人なんです。でもこういう活動しているので、広く浅く知り合いができてしまって、交際費、維持費がかかる感じなんです。どういう人と繋がり続けたいか。何回か遊びに行ったり、食事に行ったり、性別関係なく繋がりたいというんだったら、こっちから誘ってね。誘うのもハードル高いですよ。でも断られても1回誘ったという経緯があるから、2回目は断りづらいだろうというのがあるわけですね。

自分の場合は、本当に仲良くなりたいとか繋がりたいと思う人は、事前にリサーチをしますね。相手の好きなものとか相手の言ったことを思い出したりします。これは実際にあった話なんですけど、繋がりがかった人が鬼滅の刃が好きだと言っていて、鬼滅の刃なんて知らなかったんだけど、単行本を全部買って話を合わせたりとか、映画の話題を振られたら、その映画をレンタルしてみても話を合わせたりしました。

梅田：大事ですよ。

佐藤：でも、その話ってその場で終わるんです。映画の話は、1ターンで終わりなんです。最大でも2ターン3ターンですぐ終わるんです。でも理解し合えるし距離が近くなるじゃないですか。それって友達じゃないんですよね。自分は友達の作り方

がよくわからないから、繋がりたい人のことはリサーチをして、その人の活動の場所に参加したり、その人に近づきますね。自分のことを知ってほしいじゃなくて、相手のことを知ることに重きを置きます。

ろう LGBT も今は私の片思いなんです。どうしたら認めてもらえるか。UD トークも駄目だった。手話部も駄目だった。今は地域の手話サークルに通っているけど、いまいち上達しない。ちょっと行き詰まっている状態だけど。どうしても繋がりたい人のことを知ってということかな。どうですかね。

鈴木：ありがとうございます。

根本：佐藤さんは何か心理学の本とか読んでたりしますか。

佐藤：恥ずかしいな。止めてそういう質問。

根本：心理学でよく聞くテクニックを使っている気がして。

佐藤：これは言ってないですけど、私は18歳から働き始めていて15回転職をしているんです。その原因というのは発達障害があって、ってというのが最近わかったんですけど、それ以前に人との関わり方がうまくなかったんですね。家でも家族とあまり喋らなかったし、友達ともどう遊んだらいいかわからない。そのまま社会に放り出されて仕事をこなして行って。発達障害だけど仕事はできるんですよ。だから、なりたくなくても店長とかになってしまって。困っ

DAY 2 つながりを作る・維持する

たぞと。それまでは言われることをやっていけばよかったんです。

梅田：指示する側になっちゃったんですね。

佐藤：そう。上の方が「指示出してください」とかいう。上の方は意地悪だから教えてくれないんです。自分は上の人に嫌われる傾向があって、きょうだいには「上の方が言い返せないようなことを嫌な言い方で言っているんだろうね」と言われましたが、必ず上の人から嫌われて仕事を止めています。行く先々で、何年かすると人を動かす側になってしまっている、と。教えてくれる人がいないからブックオフに行き、心理学の本だったり上司の言葉の使い方とか、部下の動かし方とか、20冊ぐらい読みましたかね。そこでの知識だけで今まできました。

だから新しい人が職場に入ってきたときに、必ず名前を呼んでから話を始めると。これって基本的なことだと思います。名前を言ってから「おはようございます」と言ったり、褒める時は人前で、叱るときは2人きりの時とか、人伝いに褒めるとか。20冊前後読みましたけど、大体書いてあることは一緒でした。その知識だけで今まできているので、そうやって見抜かれることがたまにあります。「なんか佐藤さんの喋り方って」って。

ほぼブックオフの本の知識だけで人と接しているから、だから発達障害ってばれないんですよ。ばれないというか信じてもらえないので、結構難しいことを頼まれたり

して困るんですよね。できないことも多い。よく見抜きましたね。

根本：私は逆にそういう本を読むけど実践できずに終わって、知識だけがあったので気付いた感じですね。

佐藤：普通の人には本を読まずにできるわけですよ。人付き合いとしての子どもの頃から培ってきた経験でできるけど、自分は子どもの頃から1人でいたから、社会に出たときに「やばい」となって、ブックオフに行き活字を読んで、「なるほど」となって出来上がったキャラクターなので、ちょっとね、久々に言われました。ドキッとしました。

根本：ごめんなさい。

佐藤：でもそうですね。自分の生きる術というか、そうしないと生きていけなかったのだから、心理学はすごく勉強しましたね。いろいろ裏技というかね、人の心のつかみ方というかね。ずるいというかね。

梅田：ずるくはないと思います。



DAY 2 つながりを作る・維持する

根本：多分それがさっきおっしゃっていた、お金と時間の両方を使っているものに入ってきていると思うので、そのための努力というか。私は、小学校中学校までずっと一緒に仲良かった子がいるんですけど、向こうから連絡が来ないし、私は連絡を返さないという感じで。

佐藤：終わるね。

根本：終わるじゃないですか。でも、高校になってその状態が続いて、でも切りたくないなと思って頑張っていたんですよ。誕生日プレゼントを毎年送って頑張っていて、2回返ってこなかった段階で「もういい」って切ったんですよ。

佐藤：頑張った。

根本：その時私は、人に連絡をするのが苦手なタイプだって思って、そういう心理学の本とかを読んだんですけど、でもいいやって本を閉じてしまったので、それを続けていらっしゃるっていうのが、凄いなと思います。私がやりたかったことだったんだなっていうふうに見えたんです。だから、多分何か読んでらっしゃるのかなっていうふうに見えたっていうことです。

佐藤：ばれたってことですね。本当申し訳ないけどさっき言った通り、友達いないタイプなので。自分の軸であるてんでん宮城を中心に考えたとき、どうしても利害関係で人と付き合っちゃうんですよ。友達っていう友達がいなくて、という話をするとか酷い人間なんですけど、酷い人間だけど

実績を残していくためには、やっぱり利害関係でやっていくと自分は決めたので、別に友達はいらないって。なんか嫌だと思ったら、やだって言って、メールも3回に1回しか返さないみたいな。そのうち向こうが去ってくれるので。でも陰悪なムードで別れるというのはあんまりないので、徐々に会ったら「久しぶりにメール返さなくてごめんね」ってごまかしていたりします。

皆さんがこれからフィールドワークでお話される方は、ちょっと違う感じで、今日お話を進めてしまったと思うんですけど、こういう人もいるのかと思ってください。

杉浦：では、そろそろ時間ですので、これで締めたいと思います。どうもありがとうございました。

(編集：根本葵)